

熊野高 サポーターズ部 ダンスで交流深める 障害者や小中学生らと



ダンスを一緒に踊り、交流する熊野高校の生徒や障害者支援施設の利用者ら（上富田町朝来で）

上富田町朝来、熊野高校のKumanoサポーターズリーダー部はこのほど、近くの上富田スポーツセンター野球場で、障害者支援施設の利用者や小中学生らとダンスで交流を深めるイベントを開いた。

障害者への理解を深め、地域の団体と世代を超えた交流をしようと、サポーターズの2年生が企画した。田辺市の野球独立リーグ球団「和歌山ファイティングバーズ」の試合前に開いた。

イベントにはサポーターズの部員51人、社会福祉法人大塔あすなろ会の障害者支援施設「あすなろ平瀬の郷」（田辺市平瀬）と「あすなろ木守の郷」（同市木守）の利用者約50人、鮎川小学校と大塔中学校の児童生徒、保護者でつくるよさこいソーラン節の団体「YOUNG SMILE」の部員が利用した。

AGARAの約10人が参加した。サポーターズの部員が利用者や小中学生らにダンスを教え、「うらじゃ音頭」や「恋」などを一緒に元気よく踊った。試合中は部員と利用者がスタンドで一緒に応援。グラウンド整備の間には、サポーターズの部員がグラウンドでダンスを披露した。

イベントの企画を中心になつて担当し、当日の司会もした2年生の梅本蘭さん（17）は「一日のスケジュールを企画し、成功させるという貴重な体験ができた」と話し、同じく企画や司会を担当した2年生の廣畑有耶さん（16）は「参加してくださった皆さんと、楽しく交流することができてよかった」と話した。